

## ENSDF グループ平成 19 年度会合議事録 (案)

日時 平成 20 年 1 月 31 日 午後 1 時 30 分～4 時 30 分  
場所 原子力機構計算科学技術推進センター大会議室  
出席者 飯村秀紀 (原子力機構)、片倉純一 (原子力機構)  
オブザーバー：喜多尾憲助 (元放医研)、天道芳彦 (元理研)、  
橋爪朗 (元理研)

配付資料 1：各質量数の現状

2：A=118

3：Discrepancy of the energy levels proposed by (n,  $\gamma$ ) and (d, p)

議事： (1) 核構造崩壊データ (NSDD) 評価者ネットワーク会合の報告

片倉氏より昨年 7 月サンクトペテルスブルグで開かれた NSDD 会合の報告がなされた。日本は A=118 については現在の作業が終わり次第、また A=119 については直ちに担当を止めることをネットワークに提案し、了承された。次回は 2009 年に IAEA で開かれる予定。

(2) 作業状況の確認

配布資料 (1) により、作業状況の確認を行った。A=122 (田村) の評価結果が Nucl. Data Sheets 誌で出版された。A=124 (片倉) の評価結果は、査読で指摘された部分を訂正中。A=127 (橋爪) の評価結果は、先月 BNL に送り、査読結果を待っている。A=118 (神戸、喜多尾)、A=121 (大矢) 及び A=129 (天道) については評価作業を進めている。また、核図表データの更新を予定している。

(3) 評価作業の経験交換

喜多尾氏が配布資料 (2) により A=118 の評価作業での半減期、質量、(n,  $\gamma$ ) データなどの問題点を説明した。また、橋爪氏が配布資料 (3) に基づいて  $^{127}\text{Te}$  での (n,  $\gamma$ ) と (d, p) 間のエネルギー準位の矛盾について報告した。その他、評価作業で使用する計算コードなどについて意見交換を行った。

(4) 次回会合：来年 1 月頃

以上